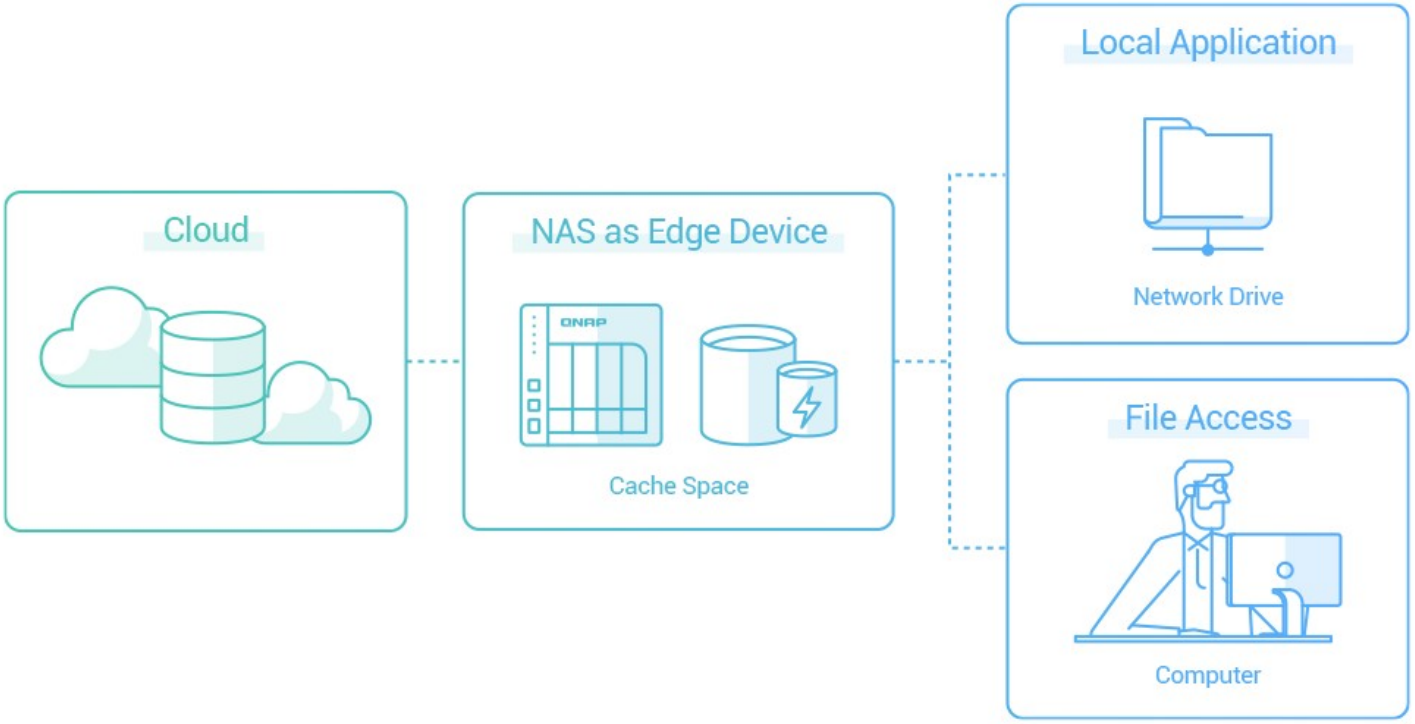
NASとクラウドストレージの連携3



前回のとの違い

前回：NASとクラウドストレージの一方向同期（バックアップ）

・NASとクラウドストレージに同じデータ（同期データ）があり通常はNASのデータがメインで運用。
詳細は下記をご視聴ください。
https://www.youtube.com/watch?v=DTpOL-vYQH0

今回：NASをクラウドストレージのキャッシュとして設定

・メインのデータはあくまでもクラウドストレージに置いてあるが、NASをクラウドのキャッシュとして利用することによりクラウドストレージより圧倒的な高速アクセスを実現。クラウドストレージのデータがメインで運用。

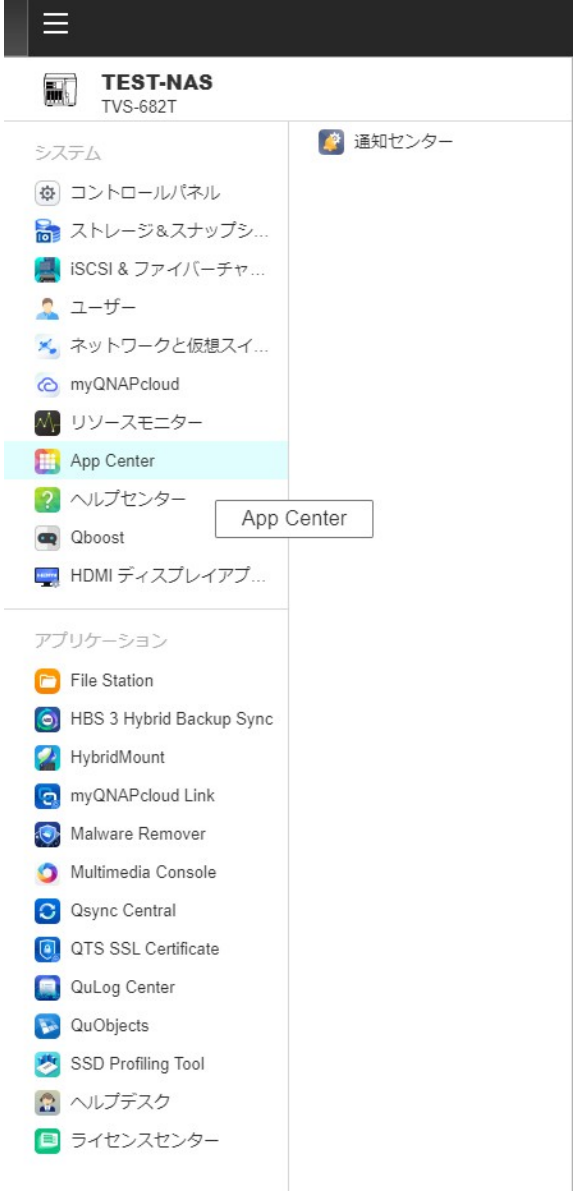
社内セキュリティーポリシーに従って選ぶ必要がある。

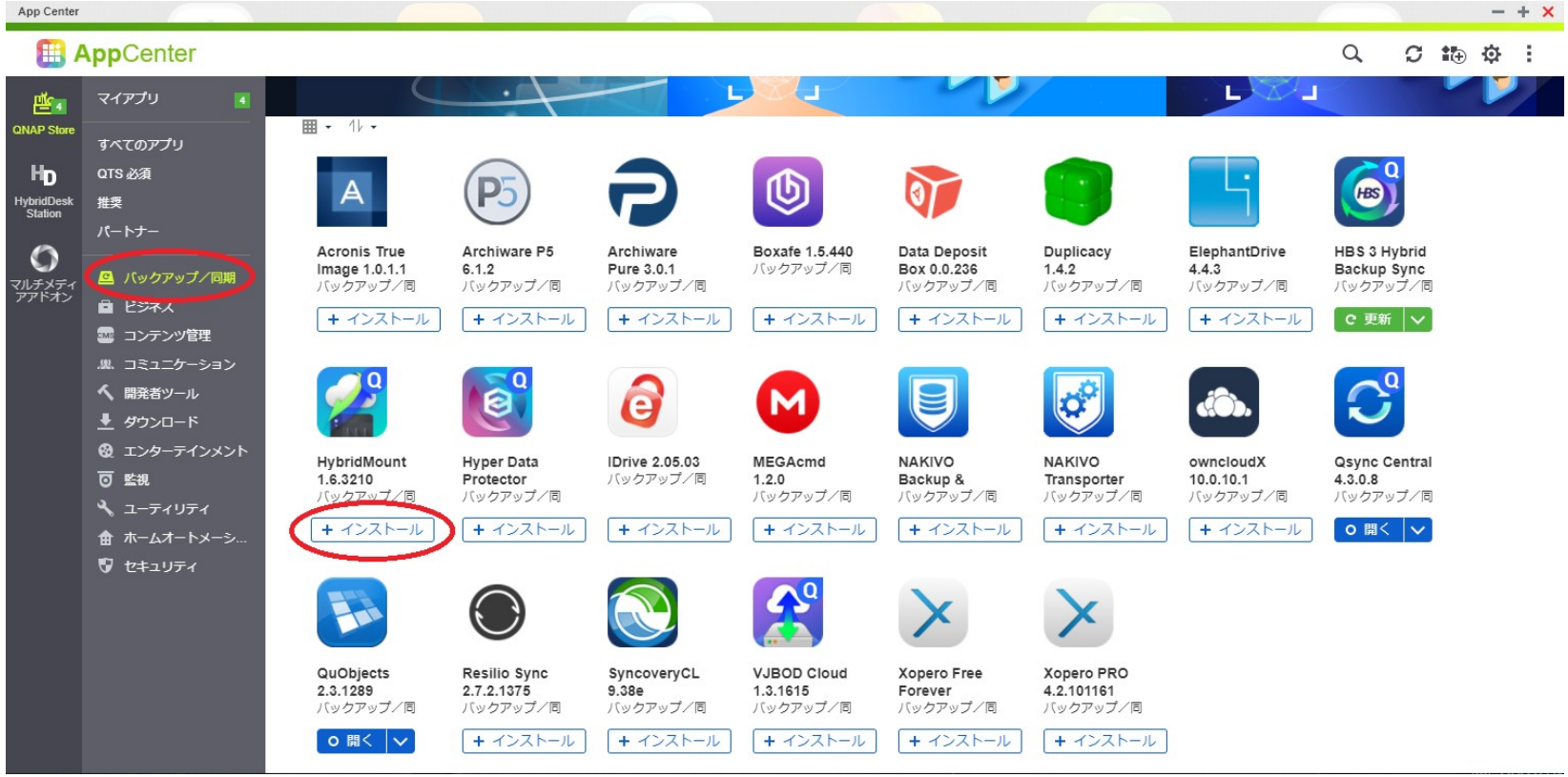
一般論で言えば前回の同期設定（バックアップ）は超重要データの取り扱い、今回のキャッシュ設定は通常データや社外に向けた企画書、見積書等に向いている。

*1台のNASで両方の設定を入れる事も可能。

実際の設定方法

1. NAS（QNAP）にログインしたらメニューよりApp Centerを選択

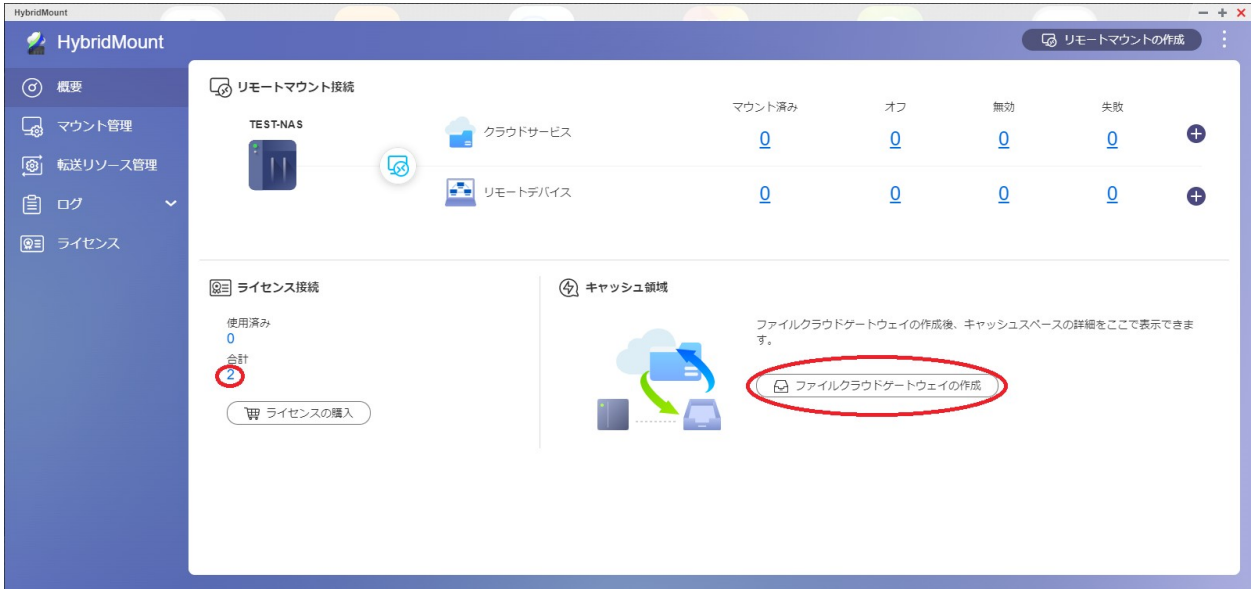


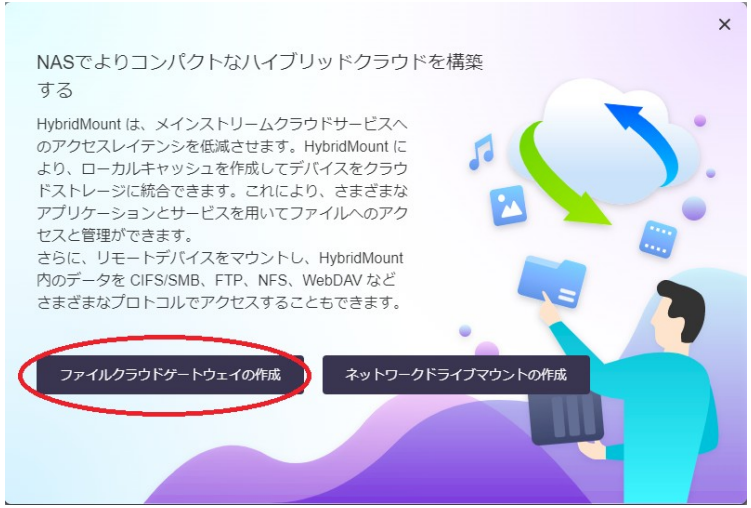


2. 左メニューより「バックアップ/同期」を選択し、HybridMountをインストール

3.インストール後にHybridMountを起動し、「ファイルクラウドゲートウェイの作成」をクリック

*ファイルクラウドゲートウェイの使用にはライセンスが必要ですが、2ライセンスは無料で付属します。

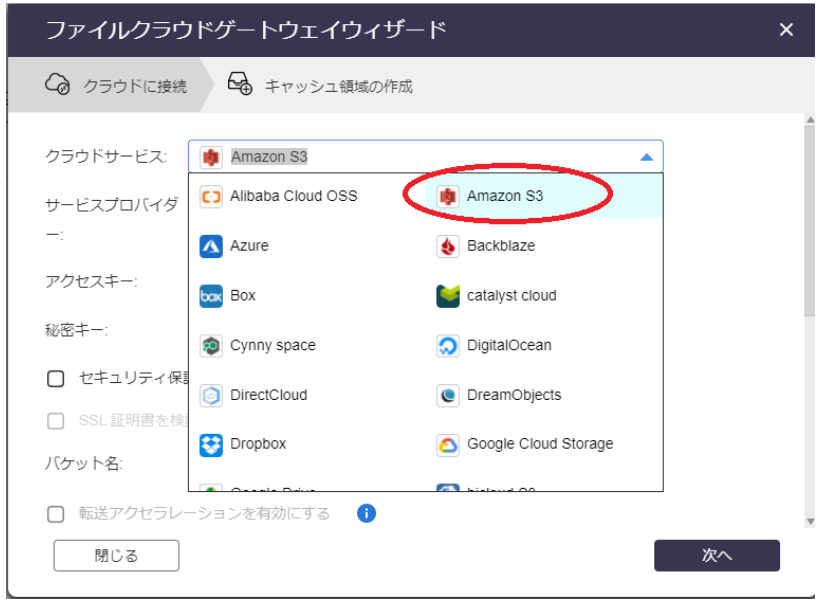


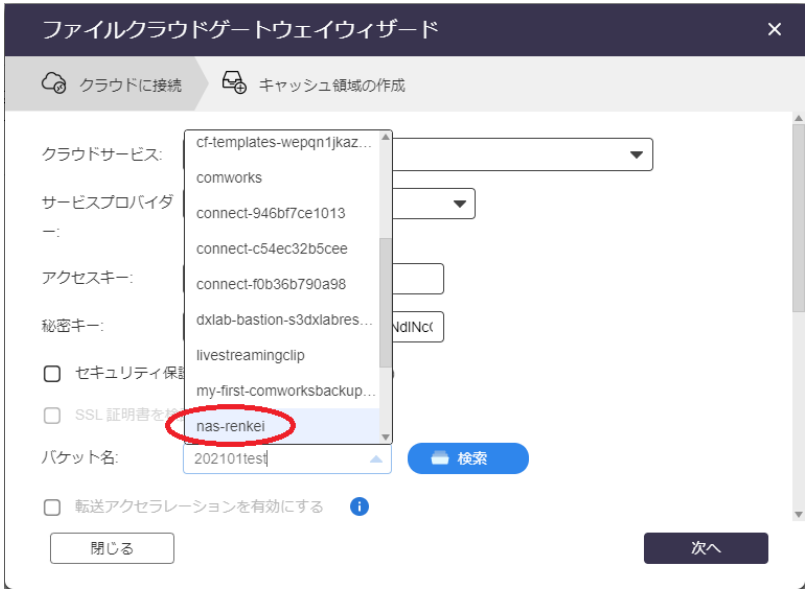


4.次ページで再度「ファイルクラウドゲートウェイ」をクリック

*「ネットワークドライブマウントの作成」はライセンスが必要ありませんが、NASからクラウドストレージ上データに簡単にアクセスするためだけの物であり、ファイルアクセスの高速化やクラウドのランニングコストを抑えることはできません。

5. 使用するクラウドストレージサービスの選択
今回はAmazon S3を選択してます。





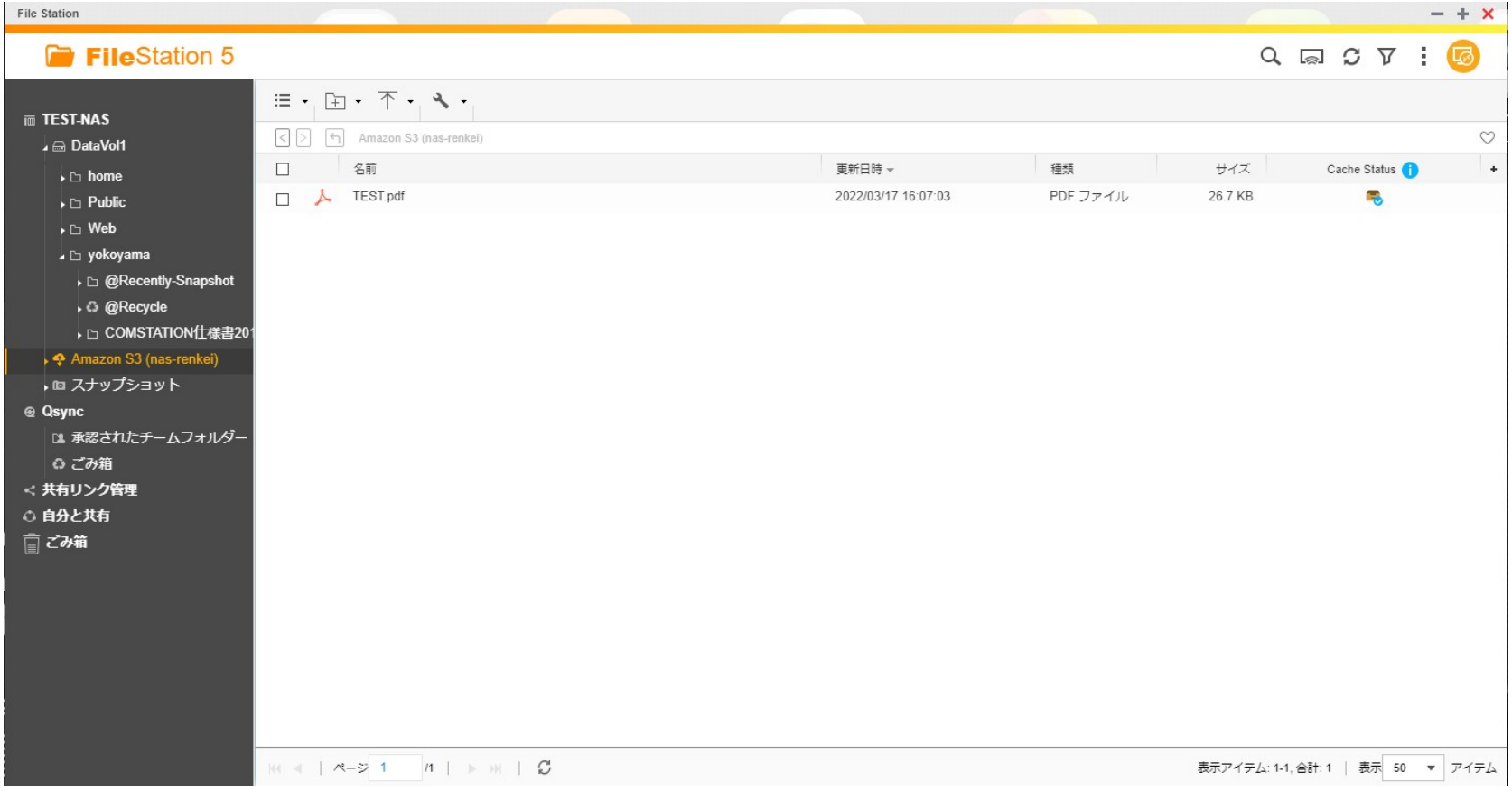
6. Amazon S3上のバケットを選択
*「バケット」とはクラウドストレージ上にある「フォルダ」のイメージです。
作成には多少の知識が必要ですがどなたでも簡単に覚えられる程度です。

7. NAS側にクラウドストレージのキャッシュとして使う容量を設定します。なお、容量を後で増やす事は可能ですが減らすことはできません。

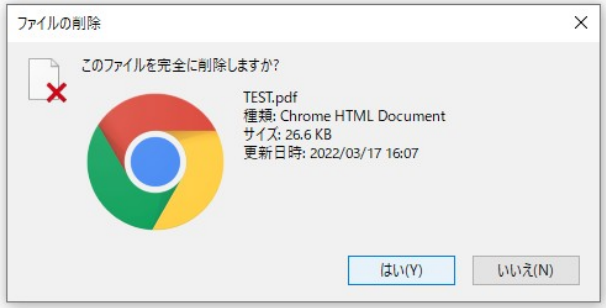
8. 作成ボタンを押したら完了

9.キャッシュとして同期するかテストの為に適当なファイルをAmazonS3のコントロール画面よりアップロードします。（今回はTEST.pdf）

10.　次にNAS上のキャッシュエリア（この場合はAmazon S3(nas-renkei))に同じファイルが見えるようになれば成功です。デフォルト設定では6分程度で同期します。（*ファームのバージョンによりデフォルト値は変更になる場合がございます。）



12.　次にNASでファイルを消したらクラウドストレージ上からも消えるかをテストします。まずはNASの当該フォルダに簡単にアクセスするためにPC上にショートカットを作成します。作成方法は前回動画
https://www.youtube.com/watch?v=DTpOL-vYQH0
の最後にある「ショートカットの作成」をご参照ください。



13.　ショートカット内にあるTEST.PDFを削除します。

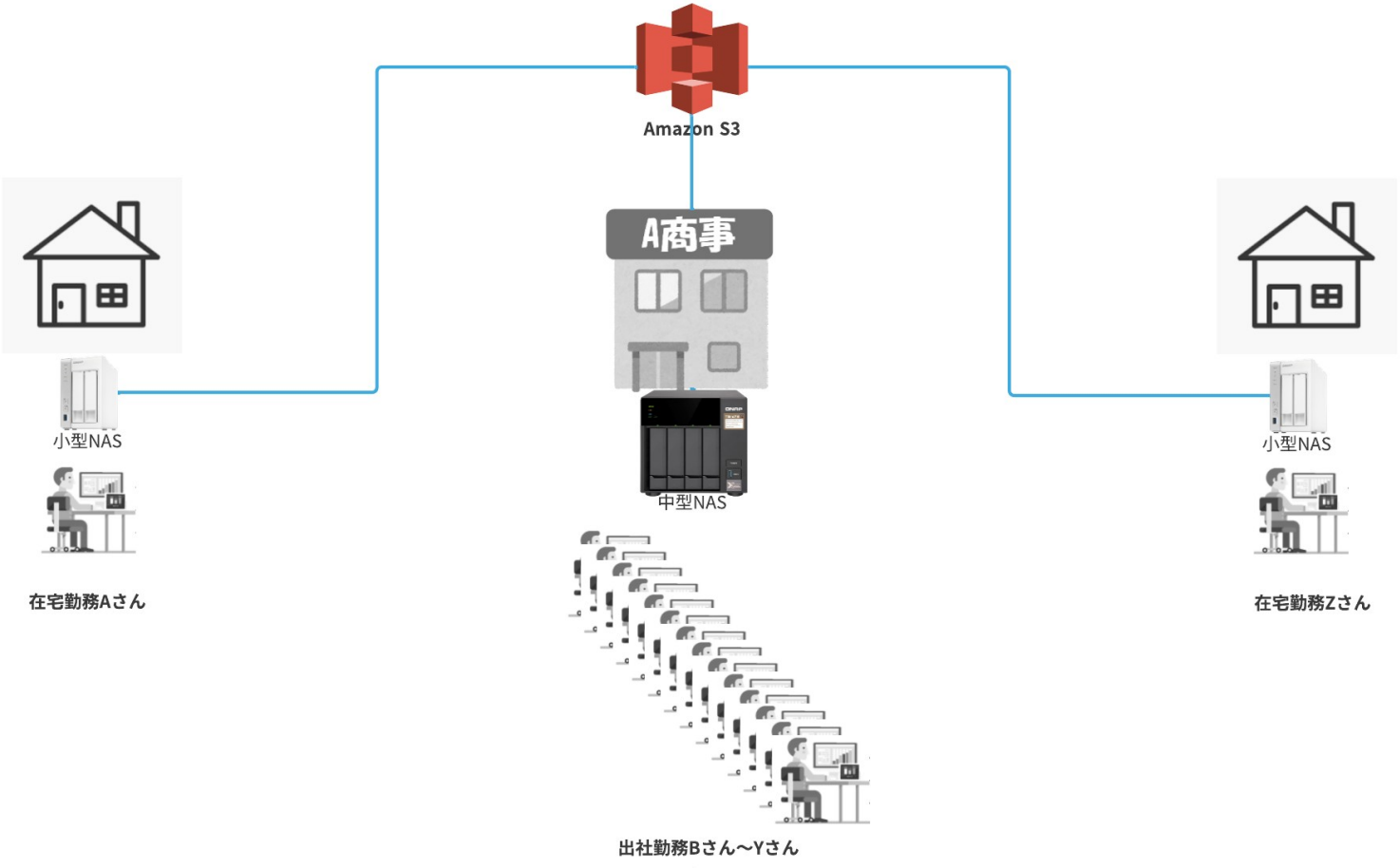
14. 30秒～数分のうちにAmazon S3内のバケットからもファイルが削除されていれば成功です。

NASをクラウドストレージのキャッシュにするメリット

LAN並の速さでクラウドデータにアクセス

クラウドストレージにPCからアクセスする場合はインターネットの速度に依存しますが、NASをキャッシュにすればLANの速度となります。また、ファイルを加工する際も「ダウンロード」→「加工」→「再アップロード（上書き）」という手順から「加工」のみになり作業効率が大幅にアップいたします。

ネットワーク使用コストを最小化

クラウドストレージの料金の大部分は「ダウンロード料金」+「保管料」で構成されます。
NASのキャッシュ化によりダウンロード回数を大幅に減らす事ができ、また不要なファイルをPC上から簡単に削除できることにより保管料金も最小限に抑えることが可能です。

安価な小型NASを導入することにより在宅勤務者の作業効率を大幅にあげることも可能です。